

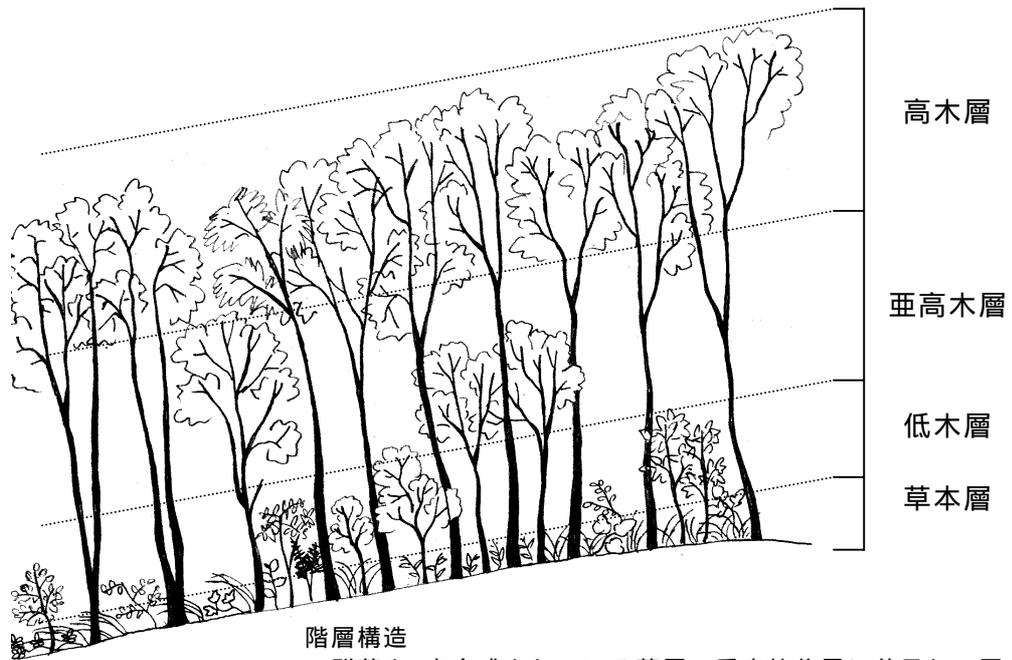
# 用語解説・索引

---

## 用語解説

番号	用語		解説
1	河跡湖	かせきこ	蛇行河川において、湾曲の大きい河道が、自然に或いは人為によりショートカットされた後放棄されてきたかつての河道。半環状の形をしていることから三日月湖とも呼ばれる。
2	BOD	びーおーでいー	水中の有機物が微生物によって酸化分解される際に消費される酸素の量を表したものの。水の汚れの度合いを示す方法として用いられ、値が大きいほど汚濁物質の量が多いことを示している。
3	母材	ぼざい	土壌の下にある岩石風化物や地層をいう。
4	腐植	ふしょく	土壌に存在する動植物遺体などの有機物の総称。
5	軽石流堆積物	かるいしりゅうたいせきぶつ	軽石を多く含む火砕流堆積物。三島市の軽石流堆積物には石英安山岩質の軽石が多く含まれる。
6	半固結堆積物	はんこけつたいせきぶつ	岩石のように十分に固まっていない堆積物。三島市では、箱根火山の火砕流堆積物や火山灰層がこれにあたる。
7	河谷低地	かこくていち	河川や谷沿いの低地。
8	植生	しょくせい	ある地域に生育している植物の集団をまとめて表現する時に用いる言葉。高山植生、海岸植生など。
9	夏緑樹林帯	かりよくじゅりんたい	中部地方太平洋側の標高700～800m付近から1600m付近までに成立する落葉広葉樹が優占する森林帯。
10	高木層	こうぼくそう	【解説図1参照】
11	亜高木層	あこうぼくそう	【解説図1参照】
12	低木層	ていぼくそう	【解説図1参照】
13	草本層	そうほんそう	【解説図1参照】
14	草本植物	そうほんしょくぶつ	一般に草とよばれる。多年にわたって生き続ける地上茎を持たない植物。
15	自然堤防	しぜんていぼう	河川の両側に自然につくられた細長い堤防状の微高地をいう。洪水時に流路からあふれた水が運んできた砂などが堆積している。
16	一年草	いちねんそう	春に種子から発芽し、夏から秋にかけて開花・結実し、冬頃には根まで枯れてしまい、種子だけが残る植物。
17	浮葉植物	ふようしょくぶつ	【解説図2参照】
18	植物相	しょくぶつそう	ある地域に生育している全ての植物のこと。
19	沈水葉	ちんすいよう	水生植物の水中にある葉。一般に柔らかい。
20	多年草	たねんそう	草本植物の一つで、地下部に栄養をため、その場所に何年も継続して生育可能な植物。
21	フォッサマグナ要素	ふおっさまぐなようそ	日本の植物相を大区分した際のフォッサマグナ地区【解説図3参照】特有の植物種。火山噴出物による種の変成、隔離による分化、海洋性気候への適応により生まれたとされる植物群で、オオバヤシャブシ、マメザクラ、ハコネグミ、ハコネアザミなどが含まれる。調査で確認されたフォッサマグナ要素の植物は、【補足解説表1】を参照。
22	走出枝	そうしゅつし	植物体の基部付近から出て地表面に沿って長く伸びる茎で、一定の所に根と芽をつけ、新しい個体の元になるもの。
23	地下茎	ちかけい	地表面より下にある茎。根に似ているが、発生や内部構造が異なる。

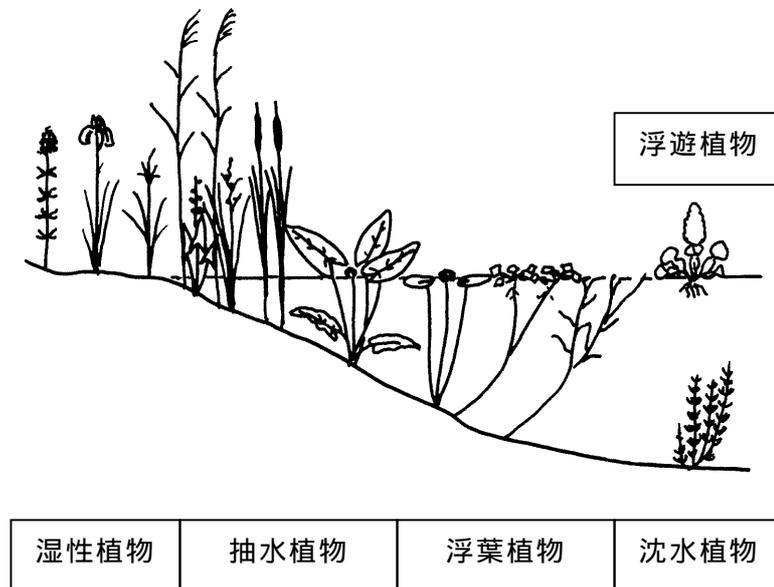
番号	用語		解説
24	腐生ラン	ふせいらん	生物の腐ったもの(植物遺体)を栄養源にするラン。葉緑体をもたないので、緑色をしていない。
25	花柄	かへい	【解説図4参照】
26	遷移	せんい	時間の経過に従って生物群集の姿がしだいに変化し、これに伴って植物群落を構成する種群が交代しながら推移する過程。
27	二年草	にねんそう	発芽して生長し、開花・結実したのちに枯死するまでの一生を1年以上2年以内で終える植物。
28	萌芽	ぼうが	芽を出すこと。
29	実生	みしょう	種子の発芽により生じた個体。特に幼個体をさして使われることが多い。
30	うげ	うげ	プラスチックや竹でできた漁具の一種。入り口は狭くなっており、魚が中に入ると外に出にくい構造になっている。 【解説図5参照】
31	種苗	しゅびょう	遊魚等のために河川に放流される幼魚。
32	日本固有	にほんこゆう	世界中で日本だけに自然分布すること。
33	花序	かじょ	花の集まり
34	舌状花	ぜつじょうか	キク科に特徴な花で、大きな弁状の部分をもつ。タンポポの花は舌状花の集まり。
35	木本	もくほん	一般的に木とよばれる。多年にわたって生き続ける地上茎を持つ植物。
36	極相林	きょくそうりん	遷移が進行して到達した最終段階の森林。中部地方の低地では、シイ、カシ、タブなどの森林となる。
37	鱗片	りんぺん	多数が重なり合って植物体をおおう扁平なもの。シダ植物の葉柄などにつく。
38	食樹	しょくじゅ	昆虫類等が餌とする樹木の事。草の場合は食草と呼ばれる。
39	葉柄	ようへい	【解説図4参照】
40	ロゼット	ろぜっと	地表面付近にあるごく短い茎と、そこから出てほぼ水平に広がった多数の葉とからなる集合体。ハルジオン、タンポポ類などの冬越しの姿としてしばしばみられる。
41	豆果	とうか	果実の一型でマメ科植物の特徴。
42	仔魚	しぎょ	孵化(ふか)してからすべての鱗(ひれ)の条数が、成魚と同じ数になるまでの個体。条とは、鱗の膜状でない部分を指す。
43	沈み石	しずみいし	石の下面が川底に埋まっていて、上面だけが水中に出ている状態の石。【解説図6参照】
44	浮き石	うきいし	川底の石が重なり、石と石の隙間が空いた状態の石。 【解説図6参照】
45	遊泳魚	ゆうえいぎょ	水中の上層～中層を主な生息空間とする魚類。
46	底生魚	ていせいぎょ	水中の低層を主な生息空間とする魚類。
47	抽水植物	ちゅうすい しょくぶつ	【解説図2参照】
48	沈水植物	ちんすい しょくぶつ	【解説図2参照】
49	稚魚	ちぎょ	すべての鱗(ひれ)の条数が成魚と同じ数になってから、うろこができあがるまでの時期の個体。条とは、鱗の膜状でない部分を指す。



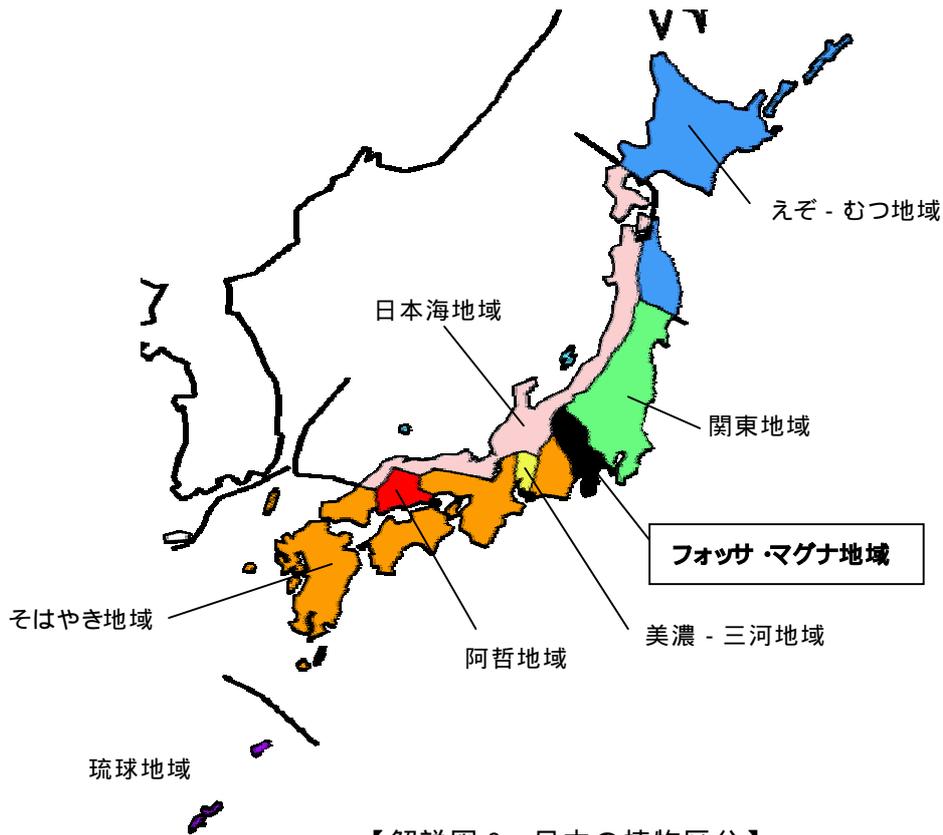
階層構造

群落を、光合成をしている葉層の垂直的位置に着目して区分したものだ。森林では第一層が高木の時、高木層といい、低くなるにつれて、亜高木層、低木層、草本層などという。

【解説図1 植物の階層構造】



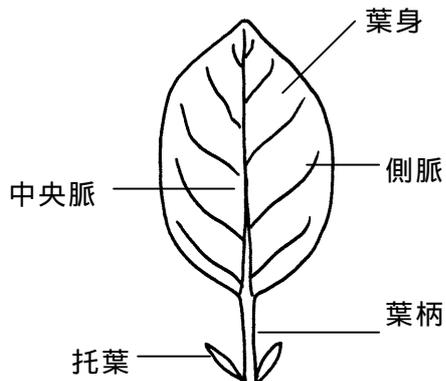
【解説図2 生活型による植物の分類】



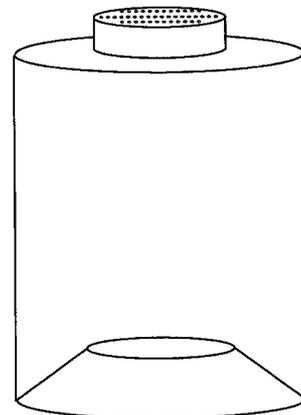
【解説図 3 日本の植物区分】

【解説表 1 フォッサマグナ要素の植物】

科名	和名
ヤナギ	シバヤナギ
カバノキ	オオバヤシャブシ
ウマノスズクサ	ランヨウアオイ、オトメアオイ
ユキノシタ	アマギアマチャ
バラ	マメザクラ、オオシマザクラ、フジイバラ、サンショウバラ
カタバミ	カントウミヤマカタバミ
グミ	ハコネグミ
シソ	イヌヤマハッカ
スイカズラ	ハコネウツギ、ニシキウツギ
キク	ハコネアザミ
イネ	ハコネザサ



【解説図 4 葉の名称】



【解説図 5 うげ(漁具)】



川底の石が砂や泥に埋もれている状態を「沈み石」といい、埋もれていない状態を「浮き石」という。

【解説図 6 沈み石と浮き石】

## 索引

植物	ページ
愛染院跡溶岩丘	32
アキノエノコログサ	74
アセビ	113
イヌノフグリ	28
イノデ	86
イワボタン	96
ウキクサ	80
ウメバチソウ	112
ウラシマソウ	86
ウラジロ	101
エゴノキ	91
エノキ	85
エビネ	26
オオイヌノフグリ	105
オオモミジ	95
オギ	74
オキナグサ	28
オトメアオイ	25
オモダカ	80
カラスノエンドウ	105
カワジシャ	25
願成寺のクスノキ	34
キンラン	26
クスノキ	84
クヌギ	90
クロモジ	96
クロヤツシロラン	26
ケキツネノボタン	79
ケヤキ	95
ゲンゲ	79
コナギ	80
コナラ	90
駒形諏訪神社の大カシ	33
駒形諏訪神社の矢立の杉	33
サラサドウダン	113
サンショウバラ	25
サンショウモ	28
ジロボウエンゴサク	110
シコクスミレ	113
シモツケ	111
神明宮神社社叢	35
スギ	100
鈴木家のカシワ	34
スズメノカタビラ	105

植物	ページ
スタジイ	84
セイヨウタンポポ	134
タカサブロウ	80
タニギキョウ	96
タブノキ	85
チャノキ	85
ツクバネウツギ	96
トウカイタンポポ	134
ノコンギク	91
ハコネグミ	25
ハコネダケ	110
ハハコグサ	105
ハリガネワラビ	101
ヒノキ	100
ヒメオドリコソウ	105
ベニシダ	86
ホソアオゲイトウ	105
ホタルブクロ	112
ボントクタデ	74
マツムシソウ	111
マルバウツギ	91
マルバダケブキ	111
ミクリ属の一種	26
ミシマサイコ	28
三嶋大社社叢	32
三嶋大社のキンモクセイ	32
ミゾソバ	74
御嶽神社の親子モッコク	33
耳石神社のイタジイ	34
妙法華寺のスギ	35
ムクノキ	85
メリケンカルカヤ	74
モミジイチゴ	111
ヤブラン	86
ヤマツツジ	91
楊原神社のケヤキ	35
ヨシ	74
楽寿園	32
リョウブ	113
リョウメンシダ	101
リンドウ	111

動物	ページ
アオオサムシ	108
アカネズミ	38
アカミミガメ	43
アキアカネ	82
アシマダラブユ属の一種	123
アズマヒキガエル	98
アブラハヤ	45,123
アマゴ	125
アメリカザリガニ	54
アユ	45,117
イノウエスジコガネ	103
イボバツタ	88
ウシガエル	129
ウナギ	119
ウルマーシマトビケラ	119
オイカワ	131
オオジシギ	59,115
オオタカ	58
オオヒラタシテムシ	108
カジカ	127
カナヘビ	93
カルガモ	131
カワセミ	41,123,134
カワニナ	54
カワムツ A 型	121
ギギ	117
キジ	41,115
キジバト	41,88
キツネ	38,108
ギンイチモンジセセリ	62
クスサン	48
クロイトトンボ	131
クロヒメガガンボ亜科の一種	51
ゲンジボタル	48,135
コアオハナムグリ	103
コアジサシ	62
コカクツツトビケラ属の種	54,117,121
ササキリ	93
サンショウクイ	59
シマイシビル	54,119
シマヘビ	43,82
ショウリョウバツタ	77
シルビアシジミ	62
スッポン	59
スミウキゴリ	121
スミスネズミ	98
タイリクバラタナゴ	129
タゴガエル	98
タヌキ	88
タモロコ	45

動物	ページ
チャバネセセリ	77
チュウサギ	58
チョウセンカマキリ	103
ツチガエル	43,82
ツミ	41,88
トウヨシノボリ	131
トノサマガエル	82
ナガオカモノアラガイ	60
ナガレトビケラ属の一種	127
ナナホシテントウ	48
ナミウズムシ	54
ナミヒラタカゲロウ	125
ニゴイ	119
ニホンイノシシ	38
ノウサギ	38,115
ハイタカ	58
ハクビシン	77
ハコネサンショウウオ	43,127
ハツカネズミ	108
ハナセマルツツトビケラ	51
ハラビロカマキリ	93
ヒカゲチョウ	98
ヒミズ	93
ヒメガムシ	129
ヒメネズミ	103
ヒメボタル	48
フタスジモンカゲロウ	51,127
ヘイケボタル	48,135
ヘビトンボ	125
ホトケドジョウ	60
ミサゴ	58
ミズムシ	54,117
ミゾゴイ	62
ミヤマシマトビケラ属 D B	123
ムカシトンボ	125

地形・地質	ページ
愛染院跡溶岩丘(溶岩塚)	67
鮎返しの滝(滝)	67
安山岩板状節理(地質構造)	69
小沢クレソン畑(湧水)	70
観音の滝(滝)	67
清住緑地(湧水)	71
蜘蛛ヶ淵(滝)	67
小浜池(湧水)	71
菰池(湧水)	71
沢地ワサビ田跡(湧水)	70
白滝公園(湧水)	71
大場川(河川争奪地形)	68
瀧川神社(湧水)	70
竹倉湧水(湧水)	70
梅花藻の里(湧水)	70
箱根軽石流(特殊岩石)	69
ハローワーク三島内溶岩塚	67
日陰洞の滝(滝)	68
松尾の滝(滝)	68
松毛川(三日月湖跡)	68
三島溶岩洞穴(溶岩洞窟)	67
三島溶岩流(小洞穴)	69
三島溶岩流(ショーレンドーム)	69
三島溶岩流(縄状溶岩)	69
水の苑緑地(湧水)	70